



# 北方民族博物館だより

## No.92



D24.2 木製彫刻 ナーナイ イワン・ドゥンカイ製作 2012年度寄贈受入  
ロシア連邦沿海地方クラスヌィヤール村 43.6cm

ナーナイの人びとが伝統的に信仰してきた精霊の姿をかたどった偶像の一種で、ナーナイ語でセウエンとよばれる。セウエンには金属や泥炭などで作られたものもあるが、本資料のような木彫りのものが最もよく知られている。本資料はアムールシナノキを素材とし、目の部分には白いガラス玉がはめこまれ、後頭部にはイヌの毛皮で作られた髪の毛を模したような房飾りがついている。

### 目次 Contents

- 1 表紙 木製彫刻
- 2 ロビー展「世界と日本の楽しいけん玉」  
／講習会「けん玉検定にチャレンジ」・講座「世界と日本の楽しいけん玉」
- 3 ロビー展「温暖化するシベリアの自然と人」／講座「東シベリア永久凍土域の景観と水環境」
- 4 アイヌ文化講習会「体験して学ぶアイヌ文化」／もよおし「第24回開館記念感謝DAY」
- 5 企画展「映像にみるカムチャツカ半島の現在」／講座「カムチャツカ先住民の歌と踊り、儀礼」
- 6 INFORMATION

## ロビー展

## 世界と日本の楽しいけん玉

2014.1.7-1.26

本ロビー展では、一般社団法人日本けん玉協会会長の丸石照機氏の協力により、丸石氏所蔵の世界と日本のけん玉69点と、当館収蔵品のなかからイヌイト、コリヤーク、アサバスカインディアンのけん玉合計10点、イヌイトの壁掛け「けん玉遊び」1点を展示しました。また、会場では丸石氏本人によるけん玉の実技映像を上映しました。



日本のけん玉コーナー

世界のけん玉のコーナーでは、フランスのビル・ボケやドイツのクーゲル・ファンク、イタリアのカップ&ボールなどのヨーロッパのけん玉と、メキシコのバレロなど中南米のけん玉を観覧いただきました。世界のなかでもフランスのけん玉遊びの歴史は古く、16世紀の銅版画に遊びの様子が描かれています。当時はカップで玉を受けて遊びましたが、やがてけん玉で穴の開いた玉を受けるビル・ボケへと変化しました。

クーゲル・ファンクとカップ&ボールはひもでつながれた玉を振り上げてカップで受けて遊びます。バレロはピヤだるのような形をした玉を振り上げてけん玉で受けます。世界各地で遊ばれているけん玉には、多種多様な形があることがわかります。

長崎を通じて江戸時代の日本へともたらされたビル・ボケは、やがて近代日本における「日月ボール」の誕生へとつながります。「日月ボール」は大いに普及し、日本のけん玉のルーツになりました。けん玉が日本人にとって身近な玩具となってからは、美しい模様で飾られたりキャラクターをかたどったりした民芸品けん玉やキャラクターけん玉も生まれていきました。

北方民族のけん玉は、トナカイの骨・角・腱や流木を利用して作られています。形も民族によってさまざまで、例えばイヌイトのけん玉は玉にたくさんの穴が開けられています。物語に沿って、穴の一つ一つをけん玉で突きながら遊んでいたと言われています。

当ロビー展は、期間を通じて、459名の皆様に観覧いただきました。

(学芸グループ 種石 悠)

## 講習会・講座

講習会 けん玉検定にチャレンジ  
講座 世界と日本の楽しいけん玉

2014.1.18

講師 丸石 照機 氏（一般社団法人日本けん玉協会会長）

講習会では、丸石照機氏の指導のもと、参加者にけん玉検定に挑戦していただきました。けん玉検定は、同じけん玉とルールのもとでスポーツとしてけん玉の技の級・段位認定を行うものです。丸石氏のわかりやすいガイドもあり、皆様はけん玉あそびやゲームを体験しながら楽しく入門級検定をクリアしていきました。

次に、参加者は各々の習熟具合に応じて、次のステップである級位検定にもチャレンジしました。入門級位の取得にとどまった方、さらに上の級位の取得にも挑んだ方などさまざまでした。



講習会のようす

講座では、丸石氏に世界と日本のけん玉遊びの歴史について解説していただきました。

けん玉とともに34年間歩んでこられた丸石氏は、トップクラスのけん玉の技の持ち主です。けん玉の技は無数にあり、可能な技は約1000種を数えるそうです。また丸石氏は、日本有数のけん玉コレクターでもあり、ロビー展で展示した以外に約400点もの世界と日本のけん玉を所有しています。

講座の中でも、日本のけん玉の誕生の話は興味深いものでした。大正7年に広島県呉市の江草濱次氏<sup>えくさはまだじ</sup>によって考案された「日月ボール」は、やがてろくろ細工を中心とした木工業で有名な同県廿日市市で、大量生産が開始され普及が進んだといえます。



講座で実演を交えて解説する丸石氏

戦後、昭和40年代にけん玉遊びはブームとなり、日本けん玉協会設立の契機となりました。文化的・教育的・体育的要素が一体となった日本のけん玉はいま、世界的に脚光を浴びつつあります。(学芸グループ 種石 悠)

## ロビー展

# 温暖化するシベリアの自然と人

2014.1.7-1.26

本ロビー展では、総合地球環境学研究所（以下、地球研）の研究プロジェクトの紹介を通じて、シベリアの自然環境と人びとの生活、地球温暖化の影響を紹介することを目的としました。

地球研は、地球環境問題の原因としての人間と自然の関係解明を目的に創設された研究機関です。2007年から地球研の研究プロジェクト「温暖化するシベリアの自然と人一水環境をはじめとする陸域生態系変化への社会の適応」（以下、シベリアプロジェクト）がおこなわれてきました。

シベリアプロジェクトでは、国内外の40名以上の研究者が東シベリアのサハ共和国を調査地とし、気温の温暖化と降水量の増加によって生態系がどのような影響を受け、今後どのように変化していくのか、また、それらが地域住民の生活にどのような影響を及ぼしているのかを研究してきました。本ロビー展では、写真20点と実物資料11点により、このプロジェクトの目的と成果を紹介しました。

最初に、地球温暖化の状況やプロジェクトの調査地となったサハ共和国の概要について紹介しました。



ロビー展会場のようす

次に、プロジェクトの主要な成果として、レナ川の洪水と人びとの生活について紹介しました。サハ（ヤクート）は、おもにレナ川中流域でウマとウシの牧畜を主要な生業として生活してきました。レナ川は南から北に流れているため、春に南の上流域で解氷が進んでも、北の下流域では氷がなかなか解けません。そのため、毎年春になると解けた氷が水をせき止め、洪水が起きています。プロジェクトによる研究の結果、サハの人びとが洪水と共存しながら牧畜を営んできたこと、近年の大規模な洪水により、これまで浸水することがなかった家や畑にまで水が押し寄せていること、夏に起きる洪水によって牧草が使えなくなるなどの問題が起きていることがわかってきました。

また、プロジェクトのもう一つの成果として、資源動物と先住民の生活について紹介しました。サハ共和国では、

おもにエベンキやエベンが、狩猟、漁労、牧畜などの生業に携わってきました。特にトナカイは重要で、野生トナカイは狩りの獲物として、家畜トナカイはおもに食用の家畜として飼育されてきました。また、良質の毛皮を獲得するための毛皮獣狩猟もおこなわれてきました。プロジェクト研究の結果、狩猟やトナカイ牧畜をおこなう人びとは、地球温暖化についての知識を持っており、一部の人はその影響を実際に認識していること、狩猟やトナカイ牧畜については、今のところ深刻な影響は出ていないことが示されました。

本ロビー展に関連し、ほっぽうサロン「トナカイ牧畜民の食卓」（平成26年1月11日（土）13:30-15:00、会場：当館講堂、講師：中田篤・当館主任学芸員）では、サハ共和国とモンゴルに暮らすトナカイ牧畜民の日常的な生活について、現地で撮影したスライドをご覧いただきながら、特に食生活に注目して紹介しました。

（学芸グループ 中田 篤）

## 講座

# 東シベリア永久凍土域の景観と水環境 —温暖化はそれらにどのような影響を及ぼすか？

2014. 1. 26

講師 檜山 哲哉 氏（総合地球環境学研究所・准教授）

ロビー展「温暖化するシベリアの自然と人」の関連事業である本講座では、シベリアプロジェクトのプロジェクトリーダーでもある地球研の檜山哲哉氏を講師に迎え、地球温暖化が東シベリアの永久凍土や景観に与える影響やシベリアプロジェクトの概要についてお話しいただきました。

地球温暖化によって北半球の高緯度地域では雨や雪の量が増えること、それによって永久凍土や植生が影響を受け、さらには人びとの生活にも影響が及ぶことなどを、平易な言葉で解説していただきました。



講師の檜山氏

（学芸グループ 中田 篤）

## アイヌ文化講習会

### 体験して学ぶアイヌ文化

2013.12.27

講師 結城 幸司 氏・福本 昌二 氏  
 (アイヌ文化活動アドバイザー)  
 伊藤 せいち 氏 (当館研究協力員)

今回で3回目となる学校教育関係者を対象としたアイヌ文化理解研修会は、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構(以降、通称の「アイヌ文化財団」と表記)との共催で実施しました。アイヌの伝統楽器・トンコリ(五弦琴)の演奏を体験するとともに、学習教材として地域のアイヌ語地名を理解することによってアイヌ文化への理解と関心を深めることを研修目標としました。

体験演奏で使用するトンコリは当館の所蔵する20台を利用し、指導講師は札幌市の結城幸司氏、福本昌二氏のお二人をアイヌ文化財団のアイヌ文化活動アドバイザー派遣事業により派遣していただきました。

はじめにトンコリの楽器としての特徴や曲に関する歴史的経緯の講義、続いて具体的な演奏体験となりました。最初にトンコリの調弦方法を教わり、その後、基本的な演奏方法を繰り返し指導を受け、後半には曲目「イケレソツテ」、「トーキトララン」の演奏に取組み、大部分の受講者は基本的な演奏法を習得し、最終的に曲を演奏できるまで上達され、充実感が得られる演奏体験となりました。



トンコリ演奏の指導をする福本氏(左)と体験する受講生

アイヌ語地名研究者の伊藤せいち氏は各受講者の勤務地周辺のアイヌ語地名に関するテキストを作成され、具体的な地名について講義されました。



意見交換会のような様子:伊藤氏(左)と阿部氏(右)

最後の意見交換会ではアイヌ文化財団の阿部範幸事業課長もパネリストとして出席され、アイヌ文化学習に関する意見交換が行われました。年末という時期のためか、9名の受講者でしたが、充実した講習会との評価をいただきました。  
 (学芸グループ 渡部 裕)

## もよおし

### 第24回開館記念感謝DAY

2014.2.9

北方民族博物館は、今年2月10日で開館24年目に入りました。これまでのご支援への感謝を込めて、2月9日と10日は常設展示を無料でご覧いただきました。そして、その一日目である9日(日曜)には、より多くの方に博物館を楽しんでいただきたいと考え、一日のうちにさまざまなイベントを開催しました。

博物館入り口のわきには、「ウェルカム雪だるま」を用意しました。あらかじめ設置してある雪だるま本体に、来館者がお好みのデコレーションをして仕上げるという体験コーナーです。できあがった可愛らしい雪だるまたちは、その後にいらっしゃる来館者をお出迎えしました。



ウェルカム雪だるま

館内では、フェルトボールのストラップづくり、餅つき体験、絵本の読み聞かせをおこないました。フェルトボールのストラップづくりでは、好きな色の羊毛を選んでいただいてボールをつくり、カラフルなストラップに仕上げます。完成したストラップは記念にお持ち帰りいただきました。



フェルトボールのストラップづくり

餅つき体験は午前と午後の2回おこない、できあがったお餅にはきな粉をまぶして来場者に無料配布しました。つきたて熱々のお餅が美味しいと、大変好評でした。絵本の読み聞かせには、網走市内の読み聞かせの会「未夢の会」さんにご協力をいただきました。そのほか、受付では開館「24」年目にちなんで、24名の方に記念品をプレゼントする抽選をおこないました。

屋外では、はくぶつかんクラブ「雪あそび〜かんじきで雪上ピクニックへGo!」(講師:山田祥子・当館学芸員)を開催し、小中学生の参加者がかんじきやイグルー、火起こしなどを体験しました。ロビーでは一般の来場者にかんじきを無料で貸し出し、自由に屋外に出てかんじきを体験していただきました。

皆様、今後とも北方民族博物館をよろしくお願ひいたします。  
 (学芸グループ 山田 祥子)

## 企画展

## 映像にみるカムチャツカ半島の現在

2014.2.1-4.6

本展示は1997年以来実施してきたカムチャツカ半島の先住民文化に関する現地調査の成果を写真や映像で紹介しています。

カムチャツカ半島は古くから日本との交流があり、南部の遺跡から日本由来の内耳土鍋や寛永通宝が出土し、さらにチギリ村で保存されていた漆塗り文箱の写真は、カムチャツカと日本列島とがかつて交流をもっていたことを示しています。また、カムチャツカは北洋漁業発生の地で、かつて多くの日本人がサケ漁に来ていました。それらの歴史を示すものとして、日本施設の遺構や、1921（大正10）年に調査船鵬丸が撮影した日本人漁場や先住民に関する写真をモニター映像として展示しています。

次に調査地の村々や調査協力者、狩猟、漁労、トナカイ遊牧、家庭菜園、先住民観光、祭など先住民の伝統的経済活動および現代の経済活動などを紹介し、モニターで先住民の漁労活動や2012年8月に撮影したハイリュウゾヴォ川のシロイルカとアザラシの映像も紹介しています。最後では最近大きく様変わりしつつある都市と地方の村々を対比して紹介しています。

実物資料としては、観光土産（ロシアの土産と先住民製作の土産）、先住民女性の手仕事を代表する皮なめし具、毛皮裁縫にかかわる資料を紹介し、さらにコリヤークの衣服や帽子、ブーツなど先住民の衣類文化を紹介しています。

次に、イテリメンの細かなトナカイ角の彫刻や嗜好品としてのタバコに関わる資料、呪い具、日常道具、漁労具類、運搬具としての大型編み袋などを展示しています。

本企画展に関連して、2月1日（土）には、講座「カムチャツカ先住民の狩猟と漁労」（講師：渡部裕・当館学芸員）を開催し、講堂での講話の後、企画展会場にて展示解説をおこないました。



民族資料について解説する渡部学芸員(右)

(学芸グループ 渡部 裕)

## 講座

## カムチャツカ先住民の歌と踊り、儀礼

2014. 2.22

講師 大島 稔 氏 (小樽商科大学教授)

甲地 利恵 氏

(北海道立アイヌ民族文化研究センター研究課長)

当講座は、2月1日から開催中の企画展「映像にみるカムチャツカ半島の現在」の関連事業として、カムチャツカ先住民の伝統的な芸能や儀礼の在り方を理解するために企画しました。講師は、カムチャツカ北部の先住民であるコリヤークの芸能や儀礼について豊富な現地調査の経験を持つお二人です。

甲地利恵氏はカムチャツカ北部における芸能調査から、映像を用いてコリヤークの文化や現地の状況、調査の実態を紹介したうえで、本題のコリヤークの歌の特徴を解説されました。コリヤークは自身の財産として「自分の歌」をもちます。これは自身で作りますが、作れない場合は、家族の歌を歌います。また歌には歌詞がないこともあります。歌詞がなくとも歌の内容が意味するところは聞き手に理解されるといいます。また、動物の声をまねて歌うことやその仕草をまねて踊ることもコリヤークの芸能の特徴です。次いで受講者は講師の指導でマニリ村のニーナさんの「自分の歌」を歌う貴重な体験をすることもできました。



演壇に立つ甲地氏



太鼓を手に、解説する大島氏

大島稔氏はコリヤークの歌と踊りに太鼓は欠かせないと述べ、北方民族におけるコリヤークの太鼓の特徴や材料・作り方、その取扱い方を解説され、さらに太鼓のリズム・演奏方法を実演されました。祭における歌や太鼓演奏の実際、男性と女性の踊りの大きな違いについて実演するとともに、太鼓演奏者の憑依(ひょうい)のことも興味深い調査体験にも触られました。

(学芸グループ 渡部 裕)

## ロビー展

## カザフの刺繍壁かけ〜トゥス・キーズ

平成26年4月19日(土)～5月11日(日)

北方民族博物館ロビー【観覧無料】

(北方民族博物館・NPO法人北方アジア文化交流センターしゃがぁ 共催)

モンゴル国に暮らすカザフの人びとに伝わる色鮮やかな刺繍で装飾された壁かけ布(トゥス・キーズ)を紹介します。

## 関連事業

◇展示解説会 4月27日(日) 11:00～11:30

会場: 当館ロビー 申込不要・参加無料

◇講習会「カザフ刺繍のコースター」

4月27日(日) 13:00～16:00

会場: 当館講堂

要申込・定員20名・有料

いずれも講師は、廣田千恵子氏(千葉大学大学院・NPO法人北方アジア文化交流センターしゃがぁ)です。

## 北海道立北方民族博物館研究紀要23号目次

## 〈論文〉

西シベリア・タイガ地帯北部におけるトナカイ飼育の脱集団化過程と複合的生業の現在／大石侑香

## 〈研究ノート〉

カナダにおける北西海岸先住民ヌーチャヌルスの捕鯨と先住権／岸上伸啓

## 〈調査報告〉

木村捷司が描く樺太・オタスの北方民族 その背景と人々(1): 網走市立美術館所蔵作品より／古道谷朝生・笹倉いる美  
ある氏族共同体の幼年期: サハ共和国の事例より／中田 篤  
ウイルト語調査報告—南部方言の語彙と文例／山田祥子

## 〈報告〉

千島アイヌの失われた伝統技術「テンキ」の博物館講座における復元の試み／斎藤和範

## 〈資料紹介〉

北海道立北方民族博物館所蔵田辺尚雄氏資料に含まれる鉄道資料／持田 誠

「鵬丸カムチャツカ周航アルバム」の民族誌としての意義: 皮船バイダラを中心に／渡部 裕

## 〈資料〉

のりりすと2013: 北方研究データベース／笹倉いる美

## INFORMATION

## 行事報告

◆12月26日(木)、ロビーコンサート2013「青少年のための室内楽の夕べ」(出演: 札幌交響楽団員)を開催しました。今年は「真冬にイタリア音楽を」をテーマとして、イタリアオペラの名曲やイタリア民謡などの弦楽四重奏をお楽しみいただきました。

◆1月11日(土)はくぶつかんクラブ「フェルトのゲル型小物入れ」(講師: 石原生久代解説員)を開催しました。

◆1月11日(土)～1月13日(月・祝)、国立民族学博物館(大阪府吹田市)で開催された国際シンポジウム「北太平洋沿岸諸文化の比較研究—先住権と海洋資源の利用を中心に」にて、当館の渡部裕学芸員が口頭発表「カムチャツカ先住民の先住権とサケ利用」をおこないました。

◆2月28日(金)、3月1日(土)、講習会「とんぼ玉づくり」(講師: 笹倉いる美学芸主幹)を開催しました。

◆3月1日(土)、「北方民族博物館のひなまつり」を開催しました。網走小学校2年生の伊藤篤治さんによる日本舞踊の公演ののち、ロビーに飾ったひな壇の前でお茶会を開きました。お茶会には茶道裏千家淡交会網走青年部の皆様に協力いただきました。



◆3月8日(土)、アイヌ文化講習会「シカ肉料理」(講師: 床みどり氏・阿寒湖畔ポロンノ店主ほか)を開催しました。

◆3月15日(土)、講座「暮らしの中の北方言語」(講師: 山田祥子学芸員)を開催しました。

◆3月16日(日)、講習会「フェルトのアザラシづくり」(講師: 笹倉いる美学芸主幹)を開催しました。

## お知らせ

◆オホーツク地域の博物館情報をまとめた「OMI オホーツクミュージアムインフォメーション」を当館公式HP内に掲載しています。ぜひご利用ください。

◆平成25年度の利用者満足度調査が北海道教育委員会生涯学習推進局文化財・博物館課のHPで公開されました。アンケート回答者の約6割が道外にお住まいで、約85%の方が当館を初めて訪れた方々でした。全体では約9割の方が、満足、やや満足と回答されました。

## 北方民族博物館だより

No. 92

平成26(2014)年3月20日発行  
編集・発行 北海道立北方民族博物館  
〒093-0042 北海道網走市字潮見309-1  
Tel 0152-45-3888 Fax 0152-45-3889  
e-mail: tonakai@hoppohm.org  
<http://hoppohm.org>

指定管理者

一般財団法人北方文化振興協会